

広報九州



国民の森林・国産林

令和3年8月10日
(2021年)

No.1794

九州森林管理局

〒860-0081
熊本市西区京町本丁2-7
IP電話:050-3160-6600(代表)
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



【中学の部】受賞者の松隈さんと関係者の皆さん



【高校の部】受賞者の河津さんと関係者の皆さん



式に参列された皆さん

熊本市立出水南中学校
3年 松隈辰実さん、
高校の部で受賞された
熊本県立天津高等学校
3年 河津慶士さんと
お二人の保護者や学校
関係者の方々、九州森
林管理局から小島孝文
局長外4名、日本森林
林業振興会から、平野
均一郎熊本支部長外1
名が出席され、岩下隆
徳総務課長の司会によ
り表彰式を執り行いま
した。
まず、小島孝文局長

令和3年7月5日に九州森
林管理局大会議室において、
令和2年度山火事予防ポスター
用原画で農林水産大臣賞に入
賞された作品の表彰式を実施
しました。

学省、総務省消防庁、全国森
林組合連合会、森林火災対策
協会が後援となり毎年実施さ
れています。
この応募作品の中から、農
林水産大臣賞に選ばれた2作
品については、毎年東京で開
催されている森と花の祭典
「みどりの感謝祭式典」にお

いて、農林水産大臣から表彰
されていましたが、今年は、
新型コロナウイルス感染症拡
大に伴い式典が中止となりま
した。

今回のポスター用原画にお

いては、農林水産大臣賞に輝
いた2作品ともに熊本県の学
生であり、過去30年間の表彰
において、熊本県から受賞者
ができたこと、しかも2作品と
もに県内の学生が選ばれたこ
とは初めてなことなので、九
州森林管理局において表彰式
を実施することになりました。

令和2年度山火事予防ポスター用原画
農林水産大臣賞入賞作品の表彰式を実施
く大臣賞2作品ともに熊本県から選ばれるく

「北郷森林ガイドいつつの木」が 美しい森づくり活動コンクールで 林野庁長官賞を受賞

【宮崎南部森林管理署】

から受賞されたお二人に表彰状と記念品の授与を行い、続いて受賞されたお二人と保護者や学校関係者の皆さんへお祝いの挨拶を述べられました。その中で、受賞者には「この受賞を機会に森林や木材のことについて関心をもって頂いて、脱炭素社会に向けていろいろな取組が始まっている中で、脱炭素社会を目指して行く上では、森林の保護や木材の利用が大事なことで、そして、これからの森林や木材の活用を考えて頂き、脱炭素社会への取組を進めて頂ければと思います。」と将来の日本を担う若いお二人へ思いを託されました。

表彰式後は、局長室にて受賞者の皆さんと関係者の方々と和気あいあいとした中での懇談が行われ、帰りには、受賞関係者の皆さんからお礼の言葉を頂きました。

九州森林管理局では、今後も若い方々が森林や木材に関心を持って頂けるような面を取り組んで参ります。また、この表彰式については、地元の新聞にも掲載されました。

【担当】総務課



伝達式の様子



森林環境教育の様子

『美しの森づくり活動コンクール』林野庁長官賞伝達式

宮崎県日南市北郷町の「北郷森林ガイドいつつの木」(会員14名)は、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の第33回森林レクリエーション地域「美しの森づくり活動コンクール」において、景観の保全・向上のための森林整備や利用者の利便性、安全性確保のための施設整備活動が高く評価され、この度、林野庁長官賞を受賞されました。

【宮崎南部森林管理署】
宮崎県日南市北郷町の「北郷森林ガイドいつつの木」(会員14名)は、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の第33回森林レクリエーション地域「美しの森づくり活動コンクール」において、景観の保全・向上のための森林整備や利用者の利便性、安全性確保のための施設整備活動が高く評価され、この度、林野庁長官賞を受賞されました。

本来であれば東京で開催される同協会の総会(令和3年6月3日)で授賞式が行われる予定でしたが、緊急事態宣言が延長されたことに伴い、令和3年6月30日に当署での伝達式となりました。

「北郷森林ガイドいつつの木」が美しい森づくり活動コンクールで林野庁長官賞を受賞

福嶋署長と受賞されたいつつの木の皆さん



福嶋署長と受賞されたいつつの木の皆さん

伝達式では、福嶋貢史署長から「会員皆様の日頃の活動に感謝申し上げます。コロナ禍でいろいろ大変ですが、今後も市民が安全・安心に利用できるよう引き続き活動をお願いします。」とお祝いの挨拶があり、永井ミツ子会長へ林野庁長官の賞状と三浦雄一郎協会会長直筆のサイン色紙が贈呈されました。同会は平成22年に任意団体として設立され、日南市北郷町の猪八重溪谷を中心とする「猪八重の滝風景林」をフィールドに、学校関係や一般市民を対象とした森林環境教育等を積極的に開催しているほか、地球温暖化防止、山地災害防止、水源涵養など森林の持つ公益的機能の重要性等についても理解を深めてもらう取組を続けており、地域住民からも高い評価を得ています。

また、森林セラピー、ノルディックウォーキング、コケの観察会の実施等によりレクリエーションの森としての魅力を高めるとともに、猪八重の滝風景林管理運営協議会や地元の自治体とも連携し、「猪八重の滝風景林」の遊歩道の補修・整備、

案内標識や樹名板等の整備を実施し、利用者の利便性の向上に取り組んでいます。さらに、最近テレビやインターネット等で話題になっている林分密度試験林(通称:木のミステリーサークル)が近いところにあり、森林教室等のフィールドとして利用するなど、森林・林業・餌肥杉のPRや自然環境の保全に多大な貢献をされています。

今回の伝達式の模様は、地元の新聞にも掲載され同会の地道な活動が県民に広く紹介され、これまで継続して行ってきた保全活動等が評価された結果となりました。

世界自然遺産登録の瞬間を見守る

【鹿児島森林管理署】

7月26日、鹿児島県の呼びかけにより、県内3会場で開催された奄美・沖縄の世界自然遺産登録視聴会に出席し、新たな世界自然遺産登録の瞬間を祝いました。

去る5月10日、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産推薦地について、諮問機関である国際自然保護連合（IUCN）よ



くす玉開きの様子（写真提供：鹿児島県）



記念写真（写真提供：鹿児島県）

今回登録が決定した世界自然遺産の核心地域には奄美大島の金作原（きんさくぼる）や湯湾岳（ゆわんだけ）、徳之島の井之川岳（いのかわだけ）など、林野庁が所管する国有林が多く含まれ、希少種や固有種をはじめとする多様な動植物が生息・生育する重要な地域となつていきます。今後、国内外を問わず多くの

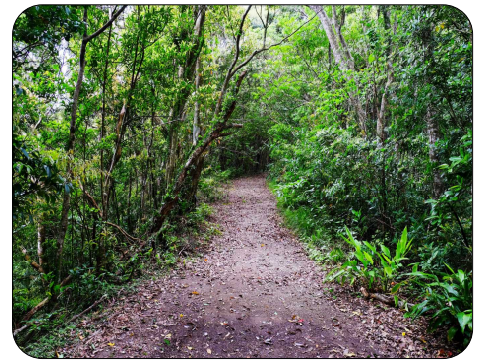
り「登録」が適当であるとの勧告を受けていたことから、今回のユネスコ世界遺産委員会で登録が決定される可能性が高いとのこと、関係者が集まりその瞬間を見守ろうというものです。鹿児島県庁、奄美大島、徳之島の各会場には関係機関や民間団体の代表など、これまで登録に向けて尽力してきた様々な関係者が集まり、インターネットを通

じて委員会及び各会場の様子が配信されるとともに、沖縄県等の各会場とも中継で結ばれていました。不安と期待の入り交じる重々しい雰囲気の中、固唾をのんで委員会の様子が映し出されるスクリーンに注目し、その進行を見守りました。

奄美・沖縄の審議が始まって間もなくその瞬間は訪れました。登録を決定する議長の木槌が打たれたと同時に、各会場は拍手とともに割れんばかりの歓声に包まれました。数多くの関係者の長年にわたる努力が報われた瞬間でした。登録決定後には、セレモニートとして全会場同時でのくす玉開きで登録を祝いました。



アマミノクロウサギ



金作原国有林 緑のトンネル

観光客がこの森林を訪れることでしよう。奄美・沖縄の登録地は世界的にその価値が認められましたが、増加する観光利用の適正化、アマミノクロウサギなど野生動物のロードキル（交通事故死）対策など、保全と利用に向けた課題はま

だまだ山積みです。これからも関係機関が連携しながら世界自然遺産としての価値を維持し、より高めることができよう取り組んでいくことが必要であることを再認識しました。

虹の松原クリーン大作戦！ ボランティア活動に参加

【佐賀森林管理署】

6月20日、虹の松原（唐津市）において、NPO法人唐津環境防災推進機構（KANNE）主催による「虹の松原クリーン大作戦」が実施され、唐津市経済観光部、唐津市内の高校、中学校、一般ボランティア等が参加しました。

佐賀森林管理署からは、白石健二署長、植薄和彦地域林政調整官、志戸祐二森林官（家族で参加）も一般参加者に交じって参加し汗を流しました。

当署から参加した3名は、現地へ到着後作業の準備をして受付へ向かうと、主催者のKANNE 西協理理事長が参加者に声をかけながら迎えられていました。受付を済ませ



ボランティア活動の様子

て早速作業に入り、はじめに地表の落枝と松ぼっくりをかき集めた後、松葉かきを行いました。

ボランティア活動によく参加している方に話を伺うと、「毎年このボランティア活動に参加している、この松原を守りたい。」と話を聞かせて頂きました。なるほど松葉かきは手慣れたものでした。

今回の作業箇所(約1ha)は、2年程作業が空いた箇所ということもあり、松葉も多く雑草等の侵入もありましたが、参加者の手によって作業が進むにつれ白砂が見えるようになり、ボランティア活動の成果が見えてきました。

本日のクリーン大作戦に参加して、地元唐津市民をほ



集められた”松葉”

め多くの方の支えによって維持されていると感じました。当署としても今後も「虹の松原再生・保全」に取り組んでいくこととしています。

【屋久島森林管理署】
6月28日、入学して間もない長野県林業大学校1学年生20名と昨年入学した2学年生18名、職員4名が校外研修の一環として、屋久島の森林・林業を学ぶため安房貯木土場を訪れました。この研修はここ数年続いておりませんが、昨

長野県林業大学校生が来訪



説明する林技官と林業大学校生

林相や森林の取扱いの違い、屋久島の森林・林業を学んで頂くことは重要なことであり、これからの日本の森林・林業を担う人材になっ

てもらいたいと大いに期待しています。当署では、本年度も外部からの研修等の受け入れを積極的に行い、人材育成の一助となるよう努めていく考えです。

年は新型コロナウイルスの影響により実施出来ず2年ぶりの開催となりました。

当日は曇りでしたが、当署安房貯木土場において西純一郎署長からリクルートを兼ねた挨拶の後、林結実技官から「ヤクスギの歴史と現況」について説明を行い、続いて倉本雅則森林技術指導官と黒田伸博主任森林整備官から詳細についての説明を行いました。

安房貯木土場に保管されている樹齢千年を超えるようなヤクスギ土埋木の存在感ある大きさや目が詰まった美しい年輪を見て驚いた様子でした。学生達からは、何故、



説明する黒田主任森林整備官と林業大学校生

普通の杉に比べて年輪が詰まっているのか、何故ヤクスギは樹脂が多いのか、土埋木の販売価格、屋久島地杉の島外出荷の行き先についてなど、さすがは林業を志している学生らしい質問が出され関心の高さを感じさせられました。



安全祈願の様子

安全祈願は、司会進行である野中神崎市商工観光課長より、「登山者及び久保山キャンプ場利用者等の安全を祈願」する目的であることの説明があり、次第に沿って執り行わ

【佐賀森林管理署】
7月2日、脊振山系最高峰の脊振山(1,055m)の山開きが、神崎市観光協会(会長：島富士男氏)主催により、脊振神社(佐賀県神崎市脊振町)において、松本神埼市長、中野神崎市議会議長、森崎脊振区長会会長、行政機関等の代表者と佐賀森林管理署から白石健二署長の23名が参加して開催されました。

脊振山山開き



玉串奉奠の様子

くの来訪者があります。人と自然の共存ができるよう本市観光地域の発展を祈念します。」と挨拶がありました。

当署で管理経営する脊振山系周辺には約1,200haの国有林が所在し山頂一帯は雄大な展望ができるなど優れた自然景観を有しており、今後も、自然環境の保全・維持や水源の涵養機能など公益的機能の維持・向上に取り組むこととして

虹の松原保護対策協議会 役員会

【佐賀森林管理署】

はじめに、本格的な夏山シーズンを迎えるにあたり、脊振神社の田中宮司により祝詞が奉納され来訪者の安全を祈願しました。

その後、主催を代表して、島神崎市観光協会会長から「これまで、多大なご支援を賜り感謝申し上げます。脊振山の素晴らしい自然を満喫してもらい、今後も市民、行政の協力をいただきながら観光資源の掘り起こしと、神崎市の発展に尽力したい。」と挨拶がありました。

また、来賓を代表して、松本 神崎市長から「脊振山の豊かな自然を満喫するため多

7月9日、唐津市役所内に「虹の松原保護対策協議会」の役員会が開催され、峰会長（唐津市長）、岩永副部長（佐賀県民環境部）、山下専務理事（唐津市商工会議所）、山崎会長（唐津観光協会）、当署からは白石健二署長が出席しました。

役員会は、事務局の中山唐



表彰された4団体の皆さん

津市観光課長兼虹の松原室長の司会進行で始まり、議長には協議会規約に基づき峰会長が務め、挨拶の中で「これまで、多くの市民や関係機関・団体などの努力によって現在の美しい姿が守られています。時代とともに様々な課題があります。本日は、6件の議案・報告について審議をお願いいたします。」と挨拶がありました。

令和2年度事業報告では、松くい虫特別防除事業への協力、年間を通じた清掃美化の取組などの報告があり、令和3年度事業計画では、これまでの活動を推進し、白砂青松の虹の松原再生に取り組む事業計画（案）が承認されました。

引き続き、令和3年度虹の



表彰された唐津南高校生の皆さん

松原保護対策協議会「功労者表彰」が行われ、「虹の松原再生・保全の活動について、年間を通じて活動をし、顕著な功労があった個人または団体」の中から、5団体が表彰されました。その後、唐津南高校生6名による、虹の松原研究班活動報告（プレゼンテーション）がありました。開発した原料を元に作られた「松葉サイダー」の試飲もあり、評判も上々でした。

本年度は、役員会のみ開催され、総会は書面決議となりましたが、虹の松原は多くの市民や関係者の支援により維持されており、当署としても後世に引き継いでいくため適切に維持・管理していくこととしていきます。

ふれあいの森「協定締結

【鹿児島森林管理署】

鹿児島森林管理署では、令和3年7月20日、鹿児島県森林ボランティア連絡会と「ふれあいの森」の協定を締結しました。協定の対象地は吹上浜海浜公園近くに位置する、2.65haの国有林で「蘇る吹上浜白砂青松の森」と命名されました。吹上浜は薩摩半島の西海岸東シナ海沿いに、いちき串木野市から南さつま市まで28kmにおよぶ砂丘で日本の白砂青松100選に選定され



協定締結の様子

県立自然公園にも指定されています。今後、県内ボランティアや地元関係団体等と連携して、毎年、計画的に抵抗性クロマツを植栽し2年目以降からは下刈りも併せて実施するなど、吹上浜の白砂青松の再生に向けた森林づくり活動が予定されています。

屋久島地域森林整備協定 運営会議を開催

【屋久島森林管理署】

7月5日、当署会議室において令和3年度第1回屋久島地域森林整備協定運営会議を森林整備協定者である、鹿児島県森林整備公社、屋久島町役場、屋久島森林組合及び屋久島森林管理署参加の下に開催しました。また、島内林業関係者も傍聴として参加しました。開会にあたり西純一郎署長から、日頃の業務運営への協力に対するお礼と令和3年度から始まった向こう5カ年の森林整備協定について積極的な意見交換をお願いしたいとの挨拶がありました。



運営会議の様子

協議事項では、各森林整備協定者担当者から森林整備協定区域内での過去5年間の計画と実績及び反省点等についての発言がありました。屋久島地杉苗の管理本数や今後の見直し等については、島全体の約8割が国有林であることから伐採後に植付を行う場合には必要な苗木を準備しておく必要があるなどの意見が出されました。

その他、先般、森林・林業基本計画の見直しが行われたことについて、今後、島内林業関係者を中心に木材利用の量や機会を増やして行かなければならないなどの活発な意見が出されました。

菊池市・大津町地域の運営会議 (現地検討会)を開催

【熊本森林管理署】

屋久島地域森林整備協定運営会議は年2回の運営会議を開催しておりますが、今後も定期的に開催し屋久島の林業発展のためにそれぞれの立場で意見交換を行っていく考えです。

7月12日、令和3年度の菊池市・大津町地域森林整備推進協定運営会議を協定者である菊池市、大津町、菊池森林組合及び当署の関係者、またオブザーバーとして熊本県北広域本部林務課関係者の参加を得て19名で開催しました。

本整備協定は、昨年3月に協定期間を更新して第2フェーズに入っており、本年度の運営会議は民国の林道等を連結するための現地検討と、国有林と民有林の間伐実施状況を確認するために、現地検討会のスタイルで開催しました。会議は甲斐誠一森林技術指導官の司会進行により、冒頭



現地検討会の様子

川畑充郎署長が協定者を代表して「新しいフェーズにおいて、これまで以上に各協定者間の連携協力を密接に行い、本施業団地の取組が他のモデルとなるようにして参りたい」と挨拶しました。

続いて、協定団内の民有林から旭野国有林の作業道への連結地点において、国有林側のルートを確認、林道敷及び支障木の取扱等を協議して、連結の実現に向けて引き続き当署と菊池市で継続検討していくこととしました。



民有林の説明の様子

その後、市原増雄主任森林整備官より当署が平成28年度に実施した間伐(列状)の実施状況と列状間伐について説明を行うとともに、場所を民有林へ移動して菊池森林組合担当者より令和2年度に実施した間伐(定性)の実施状況について説明を受けて現地確認を行いました。

最後に、当署から本年度の重点取組事項等の情報提供を行うとともに、参加者全員で意見交換を行い有意義な運営会議となりました。

「第2回 多様な森林づくりの見える化プロジェクト」現地検討会を開催

【大分森林管理署】

九州森林管理局と大分森林管理署が連携して取り組んでいる「多様な森林づくり」の諸課題や改善策を検討する“見える化”プロジェクトの現地検討会を、7月12日～13日、大分森林管理署管内の国有林で有識者や県の保安林担当者等を交え実施しました。第2回目となる検討会は、昨年度設定した「見える化」区



会議の様子

河邊喬計画課長から本プロジェクトの概要等について、局担当者から複層伐の作業イメージについて、大分森林管理署担当者からは「見える化」区域の具体的な作業方法等について、それぞれ説明しました。有識者からは、面的複層伐の群状配置面積2.5haの規模の根柢や複層伐後の将来的な作業イメージについて、また、天然更新に必要な伐区幅等について意見がありました。2日目は、天然力を活用して針広混交林への誘導を計画している伐区（熊ヶ谷国有林



溝上教授の説明の様子

2049イ林小班）で意見交換を行いました。有識者からは「地表はシカが好まないマツカゼソウ等が繁茂していて、シカの生息数が高い地域であると推測され、種子からの天然更新は厳しい状況。現況の中間層の広葉樹をなるべく残存する方向での伐採が望ましい。」また、「谷部の搬出路作設は、次の伐採にも使用することになり、水の処理等配慮が必要で、土砂流出防止や生物多様性の観点からもなるべく避けた方が望ましい。」「保安林の制限があるが、伐採幅、方向など変えて作業をお願いできないか。」などの意見がありました。次に面的複層伐によるスギ



現地検討会の様子

地域の鳥獣害対策の助言等を行えるように

【大分西部森林管理署】

大分県主催による鳥獣害対策アドバイザー養成研修会が竹田市と国東市で開催され、当署の玖珠森林事務所川原博首席森林官と中村森林事務所井上欣勇森林官が、令和3年7月15日に農林業関係団体職員等40名程度の参加があった

人工林の誘導試験地（熊ヶ谷国有林2048イ林小班外）に移動し、伐区の設定の概況を管轄の地域統括森林官が説明を行いました。意見交換では、「次期の伐区区割り等を書き入れ、将来の森林イメージを示した方が良い。」「これからの森林づくりの指標となるものであり、将来どのような森林作りを目指し、数年後結果がどうであったのか、失敗の事例も含めて記録を残し検証して欲しい。」等の意見が出されました。2日間で出された有識者の様々な意見を参考に、今後も引き続き局と連携して事業を進めることとしています。



江口所長の講義の様子

国東市で受講しました。この研修会の目的は、イノシシ、シカ、サル等の野生鳥獣による農林業被害が深刻化している中で、地域における農林作物の被害防止対策を的確かつ効果的に実施するため、県内各地域における被害防止対策の助言等を行う鳥獣害対策アドバイザーを養成することとされています。当日午前中は、室内研修として「おおち山くじら研究所」江口祐輔所長から「鳥獣被害に強い集落対策とは」と題し講義を受けました。シカやイノシシの視点から見た被害に遭いやすい集落の特徴や、獣害防止ネット等から侵入する際の習性などをわかりやすく説明されました。



現地研修の様子

今後は、上記の研修と9月に予定される防護柵設置研修の受講を以て、大分県鳥獣害対策アドバイザーに認定されることとなっております。

当署管内でもシカによる森林被害が非常に多く発生していることから、職員実行によるくくり罠の設置など、有害鳥獣駆除も積極的に実施しております。

当署では、このような研修等の場を活用するなどして、有害鳥獣駆除実務職員のスキルをアップして、職員間でその知識・技術の伝達を行いながら人材育成にも努めていくこととしています。

請負事業体災害に対する労働基準監督署との合同安全パトロールについて

【大隅森林管理署】

大隅森林管理署では治山・林道の工事関連や素材の生産や造林事業など、多岐にわたって、各種の請負事業を発注しています。

当署では4月期に請負事業において一件の請負災害が発生

シカもイノシシも柵を跳び越えることは少なく、侵入する際は地際の隙間などから潜り込むことが圧倒的に多いこと、シカは17cm程度の幅があれば通り抜けられることなど、林業被害を防止するに当たっても参考となる情報を学ぶことができました。

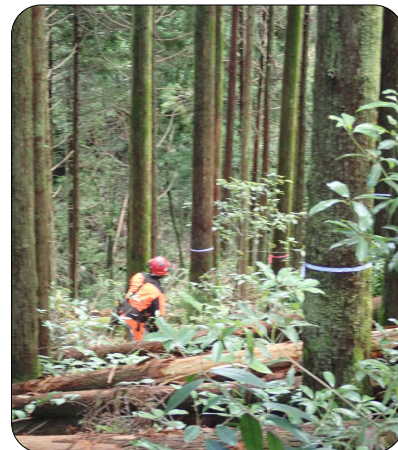
午後からは、国東市安岐町ヒラ地区の農地を実際に見て回りながら、柵を張る際の注意点や、イノシシの侵入経路等を確認することができました。約10アールの農地を3・2kmの金網の柵で囲っているにもかかわらず、イノシシが侵入できるポイントがいくつもあり、実際に侵入した痕跡が見られました。

生じたことを踏まえ、職員災害の「ゼロ災」を継続することは基より、請負による労働災害の撲滅を図るために、労働基準監督署と合同で請負者に対して安全指導等の合同安全パトロールを6月29日に実施しました。

当日は、現在契約を締結している造林・素材生産業者（18社）及び鹿屋労働基準監督署長等並びに、当署山本文雄森林管理署長外職員の総勢53名が参加しました。今回の合同安全パトロールでは田代森林事務所管内の生



座学の様子



請負事業体の伐倒作業の様子

産現場（活用型）において、実際の伐倒作業を見学した後、チェンソー指導員より伐倒時に生じる危険リスクの洗い出しや分析を行い、改善点等の指導がなされました。さらに、座学として労働基準監督署からの安全対策や労働基準安全衛生規則の改正点等の講義がなされました。

これらにより、当署での請負事業における災害「ゼロ」を目指し、参加者全員で決意を新たに閉会しました。

令和3年度「安全運転管理モデル事業所」に指定

【宮崎森林管理署】

令和3年7月2日、宮崎森林管理署は、宮崎北安全運転

管理者等協議会から「安全運転管理モデル事業所」に指定され、指定証の交付式が安全大会の前に行われました。当日は、宮崎北安全管理者等協議会会長から指定証の交付を受け、令和4年6月までの1年間、モデル事業所として警察署及び地区安全運転管理者等協議会と連携し諸活動を行うこととなります。

モデル事業所指定の目的は、事業所の交通安全活動の活性化を進めることにより、その効果を他の事業所に波及させ、事業所の関係する交通事故の防止に寄与することとなっております。平成13年度から毎年度各地区安全運転管理選任事業所の中から3事業所が指定されています。



指定証交付の様子



指定証交付式の様子

また、当署は、昨年度も宮崎北警察署及び宮崎北安全運転管理者等協議会から「交通安全優良事業所」に選定され表彰を受けており、今後も安全運転5原則（①安全速度を必ず守り、特に林道では路面状況に応じた安全運転を行う、②カーブの手前ではスピードを落とす、③交差点では必ず安全を確かめる、④一時停止で横断歩行者の安全を守る、⑤飲酒運転及び酒気帯び運転は絶対にしていない）等の安全運転への取り組みを進めるとともに、モデル事業所の指定を受け、さらなる安全運転への意識の高揚、啓発を図ることとしていきます。

国家公務員安全週間に伴い 交通安全講話等を開催

【大分西部森林管理署】

令和3年7月2日、国家公務員安全週間に伴う安全活動の一環として安全大会をはじめとし、交通安全講話等の各種安全行事を開催しました。会場は、新型コロナウイルス感染症対策のための収容率を考慮し、当署会議室では実施できないため日田市の咸宜（かんぎ）公民館施設をお借りしての行事開催となりました。

まず、安全大会においては、津脇晋嗣署長から「安全大会、交通安全講話、安全勉強会等の諸行事を実施するが、この機会に是非、思いを新たに学んで頂きたい。」と職員の日頃からの各種安全取組みに対してのお礼と挨拶があり、その後、九州森林管理局長安全大会メッセージを森本明次長が読み上げ伝達し、予め本週間前に職員に対し安全標語を募集していた47作品の中から優秀5作品を選考しての表彰式を行いました。そして、中村森林事務所井上欣勇森林官から「一人一人が安全確



挨拶される津脇署長

保の重要性を自分の課題として十分認識し、災害のない明るく職場づくりを私たちは取り組みます。」と安全大会宣言を読み上げ宣誓しました。

その後、日田警察署交通課による交通安全講話を開催し、昨今における日田地域での交通事故・違反の状況や飲酒運転の恐ろしさについての講義を頂き、公私を問わず安全運転を改めて心掛ける機会を得ることができました。



交通安全講話の様子

午後から、当署の安全管理計画書に基づき、安全勉強会を開催。当番班である総括事務管理官、主任森林整備官（経営・森林ふれあい）、玖珠首席森林官から、「①熱中症予防対策②管内の公務災害発生状況③大分県内交通事故発生状況」について発表があり、マンネリ化とならないよう職員間で発表する新鮮さ、かつ安全を見つめ直す有意義な時間となりました。

最後に綱紀保持のための勉強会として署長が講師となり、公務員倫理、発注者綱紀等のコンプライアンス確保に向けた講義を受けて当日の全日程を終えました。

『大分西部署の安全標語優秀作品』

○危ないと 感じた時に改善を あしたに危険は持ちこさない

○無駄じゃない 一つ一つの

全員で「ゼロ災害の 継続」を誓う

積み重ねる 基本動作の徹底を

○危険の芽 その日・その時・すぐ改善 危険因子を排除して 今日も一日安全作業

○慌てずに ゆっくり走ろう つうきん路 笑顔で帰宅が最優先

○生かして安心 ヒヤリの教訓 注意、提案、職場の和

【西都児湯森林管理署】

7月1日、令和3年度西都児湯森林管理署安全週間の開始に伴い、現場・署が一体となり全職員参加の下、安全旗の掲揚を行い「安全意識の高揚を図る」日として設定しました。

当日は、あいにくの雨天となったため事務室内に安全旗を掲げ、その前で、鶴山道弘署長から全職員に対し「令和3年度の健康安全管理重点目標に定める各項目について、職員一丸となり取り組むとともに、併せて請負事業体等の災害についても災害となるように。また、急激に増加しているマダニ感染症対策及び新型コロナウイルス感染症対

策等について各人が十分に注意するように。」と挨拶されました。

引き続き奥村克次長より、安全な作業動作等の徹底、ダニ感染症及び蜂対策、異常天候下における安全の確保及び単独行動とならないための署長事務連絡等について周知を行った後、全職員でタッチアンドコールを行い「3つの0の維持・継続」を誓い合い安全週間初日の日程を終了しました。

7月7日安全週間最終日には、西都警察署及び宮崎県防災救急航空センターから講師の方を招き「安全大会」を開催し、法令講習及び緊急時の処置対応及び林業における緊急救助方法等について講話をいただき、更なる安全確保



職員全員でタッチアンドコール



安全大会の様子

令和3年度 安全大会を開催

【福岡森林管理署】
7月6日（火）当署において安全大会を開催しました。今年度の安全大会は、福岡県下に「まん延防止等重点措置」が発令されている中での実施であり、新型コロナウイルス

対策の重要性を感じたところ。また、全職員から安全標語を募集し、今後1年間の各月における安全標語を決定し、全職員が一丸となり「安全で明るい職場づくり」を進めるよう宣言しました。

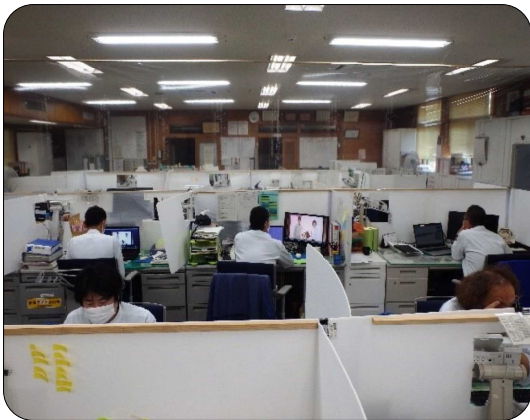
感染防止対策として、会議室での参加人数を12名に制限して3密を回避し、それ以外は執務室と各森林事務所からのWeb参加により実施しました。

冒頭、佐藤肇署長からの安全・健康に関する挨拶の後、安全標語の優秀作品6点の表彰を行うとともに、これら優秀作品と入選作品で作成した安全標語カレンダーを毎月の安全目標として活用すること全職員で確認しました。

交通安全講話では、福岡県早良警察署警部補を講師に招き、福岡県下の交通事故現状や飲酒運転、あおり運転、横断歩道における歩行者妨害、自転車運転での罰則にも指導切符があることなどについて



「ゼロ災で行こうヨシ！」



Webによる安全大会の様子

最後に、コロナ禍の中でも職員一人ひとりが安全意識を向上させて諸対策を着実に実施し、災害のない健康で明るい職場づくりに取り組むことを指差呼称で確認し、安全大会を終了しました。今回はWebを取り入れた開催であり、テスト段階では、大会そのものの進行には支障がないことを確認し

交通安全講話を受けた後、DVDを視聴しました。また、アルコール分解能力の体質判定の試験紙を用いた体験を実施し、改めて自己防衛運転や飲酒運転は絶対にしてはいけないことを確認しました。

交通法令講習会と 救急蘇生法講習会 を実施

ましたが、交通安全講話で使用するDVDの映像が途中途中で止まるトラブルがありました。試行錯誤しながら完璧とは行かないものの、スクリーンの映像を撮影し配信することで改善されスムーズな映像を視聴することができました。

【宮崎南部森林管理署】

7月2日、当署会議室及び日南消防署において、交通法令講習会と救急蘇生法講習会を実施しました。

これは、安全週間中の行事である安全衛生大会の一環として実施したもので、職員全員が参加しました。

交通法令講習会では、日南警察署から榎木田警部補を講師に招き、道路に潜む危険についてDVDを視聴し、右折時や見通しの悪い交差点での歩行者に注意する点や、夜間運転に潜む危険などを学びました。

続いて、日南消防署に移動して救急蘇生法講習会を行い、警防課竹内課長補佐から救急

蘇生法について学びました。AEDを利用した救命処置の手順を体験しましたが、胸骨圧迫では両手を胸の真ん中に当て約5cmほど押し込むことから、数分後には息が上がる場面も見られ、技術と体力が必要だと実感しました。

死戦期呼吸（心停止直後の傷病者に見られるしゃくり上げるような呼吸）などの異常な呼吸の場合は即、胸骨圧迫が必要であることや、胸骨圧迫を継続的に行うことで命を助けることができるなど大切なことを教えていただきました。

この2つの講習を契機に職員一丸となって、飲酒運転の根絶はもとより、「絶対に交通事故・違反を起こさない」強い気持ちをもって安全運転



交通法令講習会の様子



救命処置の様子

人のうごき

に取り組むとともに、救急処置については、救急な場面に遭遇した場合「助かる命が助からない」といったことがないためにも、引き続き消防署の協力を得ながら、知識と技術の習得に努めて行きたいと考えています。

「今年度も、ゼロ災で行こう、ヨシ！」

☆7月31日付退職
中村公治【経理課】
西純一郎【屋久島署】
☆8月1日付異動
宮崎北部森林管理署長
古島勝美【計画保全部流域管指導官】

屋久島森林管理署長

黒木興太郎【宮崎北部署長】

林野庁林政部企画課（年次報告班経済分析係）

藻川瑞穂【宮崎北部署】

林野庁林政部経営課（特用林産指導班さのこ係）

朝田清子【西都児湯署】

総務企画部専門官（債権管理担当）

下崎哲也【計画保全部自然

遺産保全調整官】
計画保全部自然遺産保全調整官

奥村 克【西都児湯署次長】

計画保全部流域管理指導官
松永真弥【宮崎南部署次長】

宮崎署都城支署総括事務管理官

迫畑啓逸【林野庁林政部林政課】

宮崎南部署次長

大岩根強【熊本南部署森林技術指導官】

西都児湯署次長

木村 宏【宮崎署都城支署総括事務管理官】

熊本南部署森林技術指導官

川口文明【屋久島署総括森林整備官】

西都児湯署

永井純一【大隅署】

屋久島署総括森林整備官

黒田伸博【屋久島署】



山口 ルミさん

森林をもっと身近に

大学、大学院とマツの研究をしていた娘。そんな娘が夫に選んだ人は杉の研究をしている。以前知人に「娘さんは何をしているの？」と聞かれた時に、私ははっきりと答えられなかった。そんな時に「国有林モニター」募集の記事を見つけ、少しでも知ることができたらと応募した。

よくよく考えてみるといつも身近なところに森林・木があった。子どもの頃に家族で登山をした時。結婚してから夫と将来ログハウスに住みたいねと夢見た時。叶わなかったけれど、最近完成した家のリビングは床・壁・天井全てが木張りで、心落ち着く。そして今の楽しみは放送中の朝ドラ。主人公のモニネが働く森林組合。ドラマの中で林業について分かりやすく描かれている。

林業は一般的に農業よりも知られていないし、重要視さ

れていないように見える。ところが、定期的に送られてくる資料を見ると、いかに国有林が私達の暮らしに密接に関わっているかが分かる。毎年起こる山地災害、それを未然に防ぐための活動、保安林の存在。地球温暖化の防止。希少野生生物の保護のための保護林など。

モニネの祖父の「山の葉っぱが海の栄養になる。山と海はつながっている。まるっきり関係ないように見えるものが、何かの役に立っていることは、世の中にたくさんあるんだ」という言葉。自分が知らないことがまたたくさんある。山と海と空、全部つながって、自分もその片隅で生活している。このモニターを通して学んだことを自分だけのものにせず、私自身何かの役に立ちたい。

（佐賀県嬉野市在住）



165 アメリカデイゴ (マメ科)

真夏に咲く、真っ赤な蝶形花が印象的です。鹿児島県南部を走ると街路樹にたくさん植えられており、満開の深紅の花に驚かされます。

アメリカデイゴはマメ科の南アメリカ原産の落葉低木です。日本には江戸時代に渡来し和名はカイコウス(海紅豆)。カイコウスの名はあまり使われず、アメリカデイゴと呼ばれることが多い。鹿児島県の県木です。(沖縄県のデイゴは別種)

国内の野生樹木の多くが前年に花芽をつけるのに対し、熱帯性のこの樹は本年枝(今年になって新たに伸びた枝)に花をつけます。それで、初夏に一度開花したあと、さらに新しく枝を伸ばしそれにも花をつけるから、1年に2、3回も花を見ることができます。

樹木を観察すると枝、葉柄、主脈に曲がった小さな棘があります。葉は長い柄のある3出葉で互生、小葉は長さ8〜15cmの卵状楕円形で裏面は白っぽい。6〜9月枝先に総状

花序を出し、深紅色、長さ約5cmの蝶形花を開く。旗弁は倒卵形で大きく、下向きに開く、翼片は小さい。50cm内外の花穂となっています。

森林インストラクター

安楽行雄



みぞりの散歩路

子どもの頃、夏休みになると近くの山へ虫捕りに出かけた。川遊びをしたりと、自然を身近に感じていたものだ。当時はメディアの普及も乏しく、外で遊ぶのが当たり前だったが、小学2年生の息子は毎日テレビゲームとYouTube三昧だ。そんな息子が去年の夏、「カフトムシを捕りに行きたい」と予想外の一言に少し驚いた。「よし、わかった」と近くの山へカフトムシを探しに出かけた。カフトムシを探すのは25年以上ぶりの事だったが、昔の勘を頼りに山を散策した。沢沿いにあるクヌギに近づくと、地上3メートル付近にカフトムシらしき姿が見えた。すかさず虫網を振りかざしたが捕獲失敗。すると虫網に驚いたカフトムシが目の前に飛んできた。棚ぼた気味だが、無事捕獲に成功。久しぶりに自然と触れ合い、息子と一緒に無邪気にはしゃいだ。楽しい思い出も全ては自然のおかげである。自然への感謝と大切さを息子にもしっかり伝え、後世に自然の恵みが引き継がれることを願う。

▼昨年からは新型コロナウイルスに苦しめられているが、密を避ける遊歩道として、キャンプや釣り釣りが流行っている。今夏も何か自然と触れ合えるアウトドアを楽しみたいと思う。

【K】